

自転車利用実態定点調査報告

平成27年5月

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成27年4月24日
[午前]8:00~8:50

調査場所 ・ 都立〇〇高校(共学)
概要 ・ 調査対象(高校生の自転車通学実態)

調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

No.	走行空間				危険走行			
	車道	歩道	自転車道	その他	危険走行	危険走行	危険走行	危険走行
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								

調査日時:	平成	年	月	日	時
実施:					
調査時間:					

<調査票>

[コメント]

◎走行空間においては、歩道走行率が、97%であり、左側車道走行率は、3%の結果であった。

◎危険運転行為は、片手運転(33件)・肩に荷物(12件)・カバン背負い(9件)・ギター背負い(8件)・ハンドルに荷物(8件)の順となっている。

【総合】

今回の調査は、引き続き、高校生の自転車通学の実態を調査したものであり、一般の人と比較して高校生が自転車のルール・マナーを遵守して利用しているかの判断基準となりうるものである。

同校の生徒においては、歩道通行者が主体であったが、極一部の生徒が左側通行をしていた。

原因として、幹線道路(片側1車線の追い越し禁止表示路線)に面しており、交通量も多いことが考慮される。

車道を避けて歩道を通行せざるを得ない状況となっているが、歩道(幅員2m)が狭いため、自転車や歩行者のすれ違いには、危険を感じる状況である。

また、カバン背負い及びギター背負いの生徒の一部は、校門通過左折(右折)時に、転倒する危険性が高まるので、極力避けるか、一時的に自転車から下車する等の行動が望ましい。(重量やバランスの関係からギター背負いの生徒は、特に注意が必要)

さらに、危険運転行為の中では、片手運転が、全体(70件)の約5割(33件)を占めていた。

不安定な走行を招きやすいため、行わないことが望ましい。

因みに、同校での自転車通学の割合は、全校生徒(総数900人)の9割程度である。

校内には、駐輪場が複数整備(総収容台数800台)されていた。

なお、校門直前での左右や後方確認をしている生徒は、皆無であった。

同校の登校時間(8時30分)直前5分前には、多数の生徒が校門を目指す状況となっていた。

なお、登校時間を過ぎても一部の生徒が、自転車通学をしていた。

今回、自転車通学用の校門は、2箇所(正門・北門)存在しており、利用率は、半々であるとのことである。

また、同校での自転車通学の条件は、特になく、車種制限についても、特に行われておらず、スポーツ車や小径車等で通学している生徒もいた。

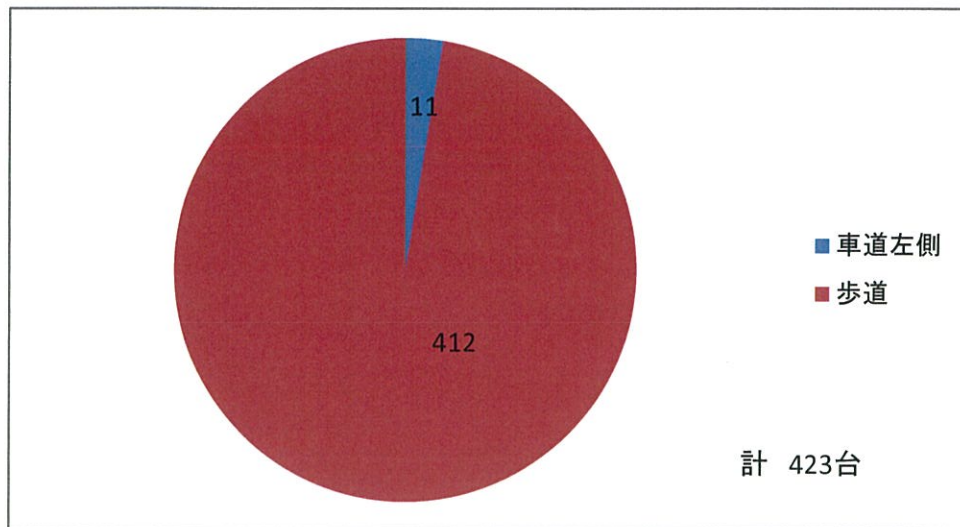
因みに、同校では、毎朝、教諭による自転車通学の指導を行っている他、交通安全啓発の一環として、新入生(4月)を対象に交通安全講習を行っている。



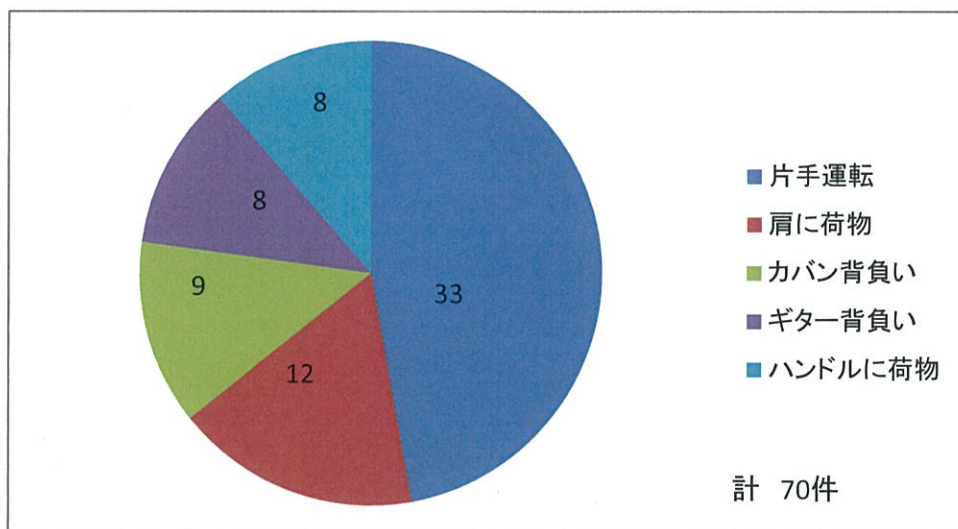
自転車駐輪場(中央右側)



自転車駐輪場(中央地区)



走行空間



危険運転行為